

**新型コロナウイルス感染症対策アドバイザーボード（第61回）**  
**議事概要**

**1 日時**

令和3年12月1日（水）15:00～17:00

**2 場所**

厚生労働省省議室

**3 出席者**

座長	脇田 隆宇	国立感染症研究所長
構成員	阿南 英明	神奈川県医療危機対策統括官
	今村 顕史	東京都立駒込病院感染症科部長
	太田 圭洋	日本医療法人協会副会長
	岡部 信彦	川崎市健康安全研究所長
	押谷 仁	東北大学大学院医学系研究科微生物学分野教授
	尾身 茂	独立行政法人地域医療機能推進機構理事長
	釜范 敏	公益社団法人日本医師会 常任理事
	河岡 義裕	東京大学医科学研究所感染症国際研究センター長
	川名 明彦	防衛医科大学校内科学講座（感染症・呼吸器）教授
	鈴木 基	国立感染症研究所感染症疫学センター長
	舘田 一博	東邦大学微生物・感染症学講座教授
	田中 幹人	早稲田大学大学院政治学研究科教授
	中山 ひとみ	霞ヶ関総合法律事務所弁護士
	武藤 香織	東京大学医科学研究所公共政策研究分野教授
	吉田 正樹	東京慈恵会医科大学感染症制御科教授

座長が出席を求める関係者

大曲 貴夫	国立国際医療研究センター病院国際感染症センター長
齋藤 智也	国立感染症研究所感染症危機管理研究センター長
中島 一敏	大東文化大学スポーツ・健康科学部健康科学学科教授
西浦 博	京都大学大学院医学研究科教授
前田 秀雄	東京都北区保健所長
矢澤 知子	東京都福祉保健局理事
和田 耕治	国際医療福祉大学医学部公衆衛生学医学研究科教授

	加藤 康幸	国際医療福祉大学医学部教授／ 国際臨床感染症センター感染症科部長
	砂川 富正	国立感染症研究所実地疫学センター長
厚生労働省	後藤 茂之	厚生労働大臣
	古賀 篤	厚生労働副大臣
	吉田 学	厚生労働事務次官
	福島 靖正	医務技監
	伊原 和人	医政局長
	佐原 康之	健康局長
	浅沼 一成	危機管理・医療技術総括審議官
	宮崎 敦文	審議官（健康、生活衛生、アルコール健康障害対策担当）
	大西 友弘	内閣審議官
	佐々木 健	内閣審議官
	江浪 武志	健康局結核感染症課長
	吉田 一生	大臣官房参事官（救急・周産期・災害医療等担当）

#### 4 議題

1. 現時点における感染状況等の分析・評価について
2. その他

#### 5 議事概要

（厚生労働大臣）

委員の皆様には、お忙しい中お集まりくださり、誠にありがとうございます。

新型コロナウイルスの感染状況は、全国の新規感染者は、昨日30日で124人、1週間の移動平均で97人と減少が継続し、昨年夏以降で最も低い水準が続いております。

他方、感染伝播はいまだに継続しており、一部の地域でクラスター等が報告されて、都市部などを中心に夜間滞留人口が増加している地域もあります。

今日から12月に入りました。年末に向けて気温が低下し、屋内での活動が増えるとともに、忘年会、クリスマス、正月の行事等、社会活動の活発化が想定されるため、今後の感染者数の動向に注視が必要であると考えております。

さて、南アフリカを中心に確認されている新たな変異数B.1.1.529（オミクロン株）については、先日、ナミビアから飛行機で入国した際に、検疫でコロナ陽性が判明した方について、国立感染症研究所でゲノム解析を行ったところ、昨日、オミクロン株であったことが確認されたところであります。

今回の事案について、当該陽性者が搭乗していた航空機に同乗していた乗客については、

全員を濃厚接触者として取り扱い、地方自治体と連携しながら、厚生労働省において健康観察を行っております。

なお、本日、濃厚接触者の皆様について、各自治体で宿泊療養施設にできる限りお入りいただくよう、連絡をしております。

また、入国者に対する健康確認のフォローアップについて、特に南アフリカ共和国等の10か国から入国した方々については、入国者健康確認センターから直接電話をかけて、徹底した確認を行うことと致しております。

国立感染症研究所の評価によれば、ウイルスの症状に関する実験的な評価はまだなく、疫学的な評価を行うには十分な情報がまだ得られていないものの、WHOからは、他の懸念される変異株と比べて再感染のリスクが高い可能性があるとする報告がなされています。このため、引き続き、検疫で陽性となった全ての検体についてゲノム解析を実施するとともに、自治体主体の全ゲノム解析を、従来お願いしている5～10%にとどまらず、現時点の検査能力を最大限発揮して実施していただくようお願いする等、国内のサーベイランス体制も強化して参ります。

個人の基本的な感染予防策としては、変異株であっても、従来と同様に3密の回避、特に会話時のマスクの着用、手洗いなどの徹底が推奨されておりますので、引き続き、国民の皆様のご協力をお願いしたいと思っております。

なお、追加接種につきましては、クラスター発生による感染拡大防止のため、8か月前倒しして接種したい旨のご相談がありまして、1件、6か月後の接種を本日お認めいたしました。

罹患後症状、いわゆる後遺症の診療の手引きについて一言申し上げます。現時点の知見等を基に、医療従事者向けに診療や経過観察の在り方をまとめた診療の手引きが取りまとめられましたので、後ほど岡部先生からご説明をいただきたいと思っております。こうした症状に苦しむ方が多数おられる中で、適切な診療の普及につなげていきたいと考えております。

本日も直近の感染状況等や新たな変異株の評価などについて、忌憚のないご意見をくださいますよう、よろしく願いいたします。

### <議題1 現時点における感染状況の評価・分析について>

冒頭、事務局より資料2-1、-2、-3、-4、押谷構成員より資料3-1、鈴木構成員より資料3-2①、②、西浦参考人より資料3-3、前田参考人より資料3-4、砂川参考人より参考資料1、齋藤参考人及び事務局より資料4①、②、③、岡部構成員より資料5、最後に資料1にて感染状況・対策案を説明した。

(尾身構成員)

○砂川さんより示された参考資料1について。前回もこのアドバイザリーボードで、この時期に遡って調査することが非常に重要だとあった。これが今、東京都を含めて一体どう

なっているか、直近のデータ、状況が分かれば前田さんに教えていただきたい。

(厚生労働大臣)

○会議中に恐縮だが、皆様にご説明したほうがいいということがあり、私から発言をさせていただく。本日新たに、11月27日に海外から空港に到着した乗客の方の中で、検疫より陽性が確認されて、新型コロナウイルス感染症の無症状病原体保有者1名の検体について、国立感染症研究所でゲノム解析を実施したところ、オミクロン株が確認されたということである。現在、当該入国者は検疫の宿泊療養施設に入所している。オミクロン株が確認された無症状病原体保有者が搭乗していたドーハ発成田着の便には乗客115人が乗っており、昨日の取扱いと同様、144人を濃厚接触者として取扱い、対応を致したいと思っている。発表までの手順を踏んでおり、只今の報告となったもの。事務方から補足説明をしてもらいたい。

(浅沼審議官)

○今、大臣から発表があった新型コロナウイルス感染症のオミクロン株の2例目の検出について、私から補足させていただく。資料は今、皆さんの机上にあると思うが、先ほど大臣からお話があったとおり、発表資料の後部に記載、11月27日に海外から成田空港に到着した20代の男性、滞在国のペルーから来た方が、入国時の検疫の検査で陽性だったということである。療養施設で対応していたが、本日オミクロン株ということが分かった。現在この方は医療機関にお送りし、隔離をしている。その他、関係情報については裏面に書いてあるとおりである。具体的な補足としては症状のところ、入国時は無症状だったが、現在は発熱、咽頭症状があるということである。

(脇田座長)

○ありがとうございました。今、大臣と浅沼審議官からご説明があったとおり、オミクロン株の2例目があったということである。

(押谷構成員)

○オミクロンが出てきて、2例目も見つかったということであるが、これまでの経緯を見ていると、アルファ、デルタに比べて、かなりのスピードでこのウイルスが広がっている感じがある。世界的にこれだけ広がっていると、今、世界で確認されているよりもずっと大きな数の感染者が世界中で出ているのだと思う。そういう意味で、非常に懸念しなくてはいけないことだと思う。齋藤智也さんから、既存の日本のPCRのシステムはきちんと検出できるという話だった。確かに感染研が配布しているようなものはそうなのかもしれないが、いろいろな民間の検査もやられている状況で、それらは本当にきちんと検出できるのか、どこまで感染研で確認されているのか教えて欲しい。

(川名構成員)

○Our World in Dataを見ると、世界の全体的な患者数の推移と日本の流行のパターンが非常によく似ているということを前に話したが、世界の全体的な動きを見ると、今はもう世界は完全に第6波に入りつつある、患者数の急増が始まっているような形に見えるが、これに今回のオミクロン株が関与しているのかどうかというところを知りたい。

○先ほど絶対的な数についていろいろ報告があった。それぞれの国で過去においてアルファ株、そしてデルタ株に置き換わるときは、従来株を凌駕して行って、新しい株に置き換わるという現象が起こった。今、オミクロン株がたくさん出ている国において、従来株をどのぐらいのペースで凌駕しつつあるのか教えて欲しい。幾つかのデータも出ているようであり、それぞれの国での相対的な移り変わりの様子について説明してもらいたい。

(脇田座長)

○今、加藤先生も参加したので、罹患後症状のマネジメントについても質問いただきたい。それから、川名先生からの質問があり、世界の流行状況がオミクロン株の出現とどう相関しているのだろうかというところ。そのほかの各国で既に置き換わりのスピードが分かっているところがあれば教えてほしいとの話があった。河岡先生、オミクロン株でアメリカでの受け止め、アメリカで今は未検出だが、ウイルスそのものの受け止め、アメリカで検出されていない点は、どういった状況なのか。

(河岡構成員)

○アメリカの変異株を追いかけているチームが3つある。1つはバイオインフォマティクスで追いかけているチーム、1つがウイルスのシーケンスが分かった段階で遺伝子を合成してin vitroで解析をするチーム、もう一つはウイルスを獲得した段階でin vivoで解析をするチームである。今はウイルスをいろいろなところから手に入れようとしている段階で、バイオインフォマティクスのグループは、疫学の専門家ではなくてバイオインフォマティクスの専門家で、アメリカではまだ見つかっていないが、その人たちのコメントはfounder effectが結構あるのではないかということも言っていた。つまり、押谷先生が言ったようなデルタ株がかなり落ちてきているところから出てきたので、そういう影響はあるのではないかということと、GISAIDの登録は結構バイアスがあるのではないかという点。また、今ヨーロッパではデルタ株がかなり主流で、かなり流行しているという状況で、そこにこのウイルスが入っていつているので、あと数週間見れば、このウイルスがデルタ株に取って代わるかははっきりするだろうという意見であった。

(押谷構成員)

○川名先生の質問について。全て把握しているわけではないが、現状ではオミクロンが置き換わりつつあるというのは、南アフリカ辺りでしか見えておらず、それ以外の国でも、

イギリスでもオミクロン株の市中感染があるのではないかということは言われているが、検出されているのはごく僅かなので、オミクロン株で増えていると現時点では言えないと思う。まだデルタが勢いを維持しているヨーロッパ、アメリカ等はまだまだかなりの感染が出ており、その辺りで今後どうなるかというのを見ていかないと、全体としてどういう傾向になっていくのかは分からないと思う。恐らくデルタとの競合に関して、本当にどの程度、デルタに比べて感染性が強いのかという点も、そういった国での動向をきちんと見ることも必要なのだと思われる。現時点で、南部アフリカ、特に南アフリカ以外のところで、オミクロンで増えていることが明らかどころは恐らくないのだと理解している。

(前田参考人)

○尾身先生からの質問について。東京都だけの状況であるが、最近東京都のクラスターに至った事例がない。クラスターの調査を行ったという報告は来ているので、決してクラスター調査を行わなくなって、クラスター発生の届げがないという状況ではないと理解している。一方で、高齢者施設、医療機関、児童福祉施設が多いという状況で、企業等のクラスター等についての調査は若干少ないと思っており、この辺が第5波の際にある程度集約化した際の影響があるという可能性もある。ただ、実際には、私どもの保健所で見ている限りでは、そもそも企業等で感染を疑わせるような事例が発生していないこともあるだろう。先日、厚労省からも再度、徹底すべしという通知も出ており、決してサーベイランス体制が弱体化しているということではないは、改めて、今回のオミクロン株の発生に伴って、検体確保も含めて、再度、そうした働きかけもよいかと思っている。別件で検出しているのは、検体確保につままして、現在の状況であれば、ほぼ全例の検体を確保し、地方衛生研究所でも解析することは可能な数だと考えている。一方で、今、検査体制が非常に拡大しており、いわゆる郵送型の検査を行っているところについて、全ての民間検査機関がこの検体を陽性が判明後も保持しているかどうかということもある。また、検査体制が拡充する中で、医療機関自身が検査体制を実施しているところもある。中には抗原定性検査をもって陽性と診断しているところがあるので、医療機関等での検体確保につまましては、医療機関に対していま一度、そうした確保を要請するというのもよいのではないか。我々は、管内の医療機関に対してはそういった要請を行っているが、全体として現在であれば悉皆的に検体を確保するというのであれば、そうした漏れない体制を取ることが望ましいのではないか。

(砂川参考人)

○全国のクラスター調査に協力している中で、地域によっては第5波の影響、疲労感もかなり残っていて、後ろ向きの調査があまり十分に行われていないような地域でのクラスターの発生も見つかる場合がある。そういった場合に、後ろ向きの積極的疫学調査をしっかりとやっていこうと働きかけているところである。施設等で先に見つかるという状況があると思

うが、最近注目しているのは、成人が先に見つかって、後ろ向きに調査をしていくと小児からもらったりしているような例もあり、小児の感染、有症状児などの検査をしっかりと行っていくというあたりも非常に重要な点である。これからまとめていきたい。

（脇田座長）

○加藤先生、診療の手引きの別冊、罹患後症状のマネジメントをまとめてくださり、本当にありがとうございました。先ほど岡部先生から簡単に説明いただいたが、先生からも何かポイントがあればこの場で説明いただきたい。

（加藤参考人）

○このような機会をいただき、感謝している。私からは、急性期の手引きもまとめているが、急性期以上にこの罹患後症状は様々な専門家、また一般の医療機関でも様々な分野の方、産業医学等も含めて関わる必要があり、これから非常に注目されてくると思う。この罹患後症状といった用語も含めて、これからどのようなフィードバックが利用者から出てくるのかを考えて、次回の改訂につなげていきたいと考えている。

（押谷構成員）

○砂川さんの積極的疫学調査に関連して資料1について。デルタもまだ懸念すべき状況にあって、国内でどこかでずっと伝播が続いている状況で、きちんと整理をしていくことも必要であり、孤発例が増えている。今の感染者の状況だと、恐らくその自治体の枠を超えていろいろな情報提供することで見つかるものもある。数が多いときにはできなかったこともできるのではないかと思われる。ワクチン接種が進んでいるので、なかなか症状が出にくいということは考えられる。オミクロンで重症度、症状の出やすさが変わっているのかは分からないが、オミクロンのこともあるので濃厚接触者の検査を徹底するとか、そういったところは何らかの形で書き込んでもらいたい。

○PCRの件について。民間検査がオミクロン等に対応しているのかが心配だが、如何か。

（齋藤参考人）

○感染研では感染研法でしか確かめられていない。プライマーの配列等メーカーのものは分かっていないものもあり、確認ができていない。

（脇田座長）

○メーカーに確認を促すことは必要かもしれない。押谷先生の感染経路不明事案の発生についての積極的疫学調査の徹底、幅広く検査を行うことに関して、どのように書き込めるかこちらで検討させていただきたい。

(砂川参考人)

○押谷先生のコメントについて。地域によって、少数であってもウイルス、陽性者が継続して見つかったりする地域があるので、種ウイルスというべきか、循環が続いていると思われる。押谷先生の言うとおりで、その辺りの感染源、感染経路をしっかりと追求していくというところで、連続して出ているという点は要注意で臨んでいただくことがまずは必要なだろう。その辺りも書き込めるよう相談していく。

(武藤構成員)

○昨日のオミクロン株の感染者の1例目の情報について。去年の2月に厚労省が都道府県に参考にと通知していた一類感染症の公表基準と違う形で、国籍、職業が記者に説明されていた。更にワクチン接種歴、濃厚接触者も詳しく出ていたが、公表基準に照らしても、個人に関する情報をつけ過ぎていると懸念している。何か事情があつてのことなのか事務局に伺う。また本日の2例目に関して、報道機関にどこまでの情報を出すか方針も併せて伺いたい。この2年近く折に触れて申し上げてきたが、感染者に関する公表の在り方が日本は出過ぎている。いろいろ情報を出し過ぎており、去年の12月だったか、公表基準の見直しについて感染症部会で案が出た後、コロナに適した形の公表基準は出来上がっていないのではないのか。注目度が高い変異株なので、国として一定の説明責任を果たしたい事情はよく理解できるが、今必要なことは、粛々と感染対策とワクチン接種を続けてもらうという呼びかけが重要であり、変異株の何件目、何県で初めての例が出たといった去年のデジャビュみたいなことを繰り返すべきではない。これが続くと、社会経済活動の再開にとっても非常に足かせになるので、事務局に昨日の1例目の情報が国籍や職業を出した理由と、今後の方針を伺うものである。

(浅沼審議官)

○原則的に職業は出さないというのが考え方としてはあつたが、世の中の方々が一般的に外国人は全部止めたのに、もしこの人が外国人だったら話が違うのではないかといった指摘を受けることもあるだろうし、それは国籍を言わなくても疑心暗鬼になっていくような状況があるだろうと判断した。公的な立場の外交官ということと、職業を明らかにすることについては、本人の意思も含めて差し支えないということで、非常に例外的な措置ということで、このオミクロン株の注目を考えて、公表したということである。2例目以降はもちろん公表基準に照らし合わせて考えていきたい。

(武藤構成員)

○メディアはいい前例ができたと思っているようで、どうか気をつけていただきたい。

(浅沼審議官)

○承知した。

(脇田座長)

○その他如何か。今日もありがとうございました。またよろしく申し上げます。

以上